

泌尿器講座

陰のう水腫

いい腎泌尿器科クリニック院長

石井 達矢

●(いい)たつや)1999年(平成11年)山形大学医学部卒業。同大附属病院、市立病院済生館、公立置賜総合病院勤務などを経て2020年5月いい腎泌尿器科クリニックを開業。医学博士、日本泌尿器科学会認定専門医、日本医師会認定産業医。



精巣を包んでいる袋(陰のう)の中に液体がたまる病気を「陰のう水腫」といいます。

主な症状は陰のうの腫大で、片方だけに症状が出るのが一般的です。痛みは伴わず、鏡で見て左右差に気づいたり、片方だけが重くなるので歩行時の違和感や不快感で気づいたりすることが多い

病気です。

乳児に多い交通性

陰のう水腫は1歳ぐらまでの乳児にみられる「交通性」と、成人にみられる「非交通性」に分けられます。

交通性の場合、胎児期にはおなかの中と陰のうがつながっており(Ⅱ交

通があり)、腹腔内の液体が陰のうに流れ込むことで発症します。日中に膨らみ、睡眠中に小さくなるなど大きさが変動するのが特徴です。

交通性陰のう水腫は自然治癒することが多く、経過観察で様子を見るのが基本ですが、1歳を過ぎても改善しなかったり、腸が入り込む「鼠径ヘルニア」が疑われる時は手術も検討します。

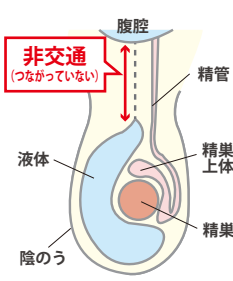
成人なら非交通性

非交通性の場合、成人になるとおなかの中と陰のうはつながっておらず(Ⅰ非交通)、陰のうの中で液体がつくられることで発症します。原因は

不明ですが、外傷や感染が関与する可能性も指摘されています。

非交通性陰のう水腫は自然治癒が期待できないため、陰のうの中で液体をつくってしまう犯人を除去する手術が選択肢になります。

注射針で液体を抜き取るやり方は再発を招きやすく、通常は推奨されません。



精巣腫瘍には注意を

注意が必要なのは、痛みが伴わず陰のうが腫大

する陰のう水腫と似た症状に、「精巣腫瘍」という悪性のがんがあることです。精巣腫瘍は30歳代に多いとされており、昨今は50歳代でも発症がみられることが知られています。

このため、症状を感じた場合は泌尿器科で超音波検査を受けることが大切です。

〈泌尿器科・内科〉

いい腎泌尿器科クリニック

☎023-616-3601 山形市桜田西4-17-49

●診療時間
午前/9時00分～12時30分
午後/14時30分～18時00分

●休診日
木曜午後・土曜午後・日曜・祝祭日

